

花菖蒲解説

422-77



1200501474057

422

77

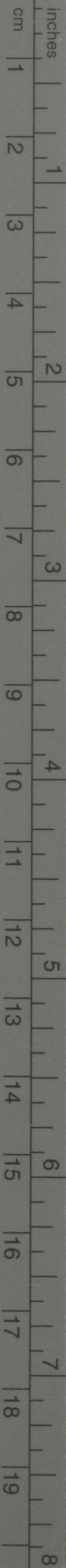


Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



Blue

Cyan

Green

Yellow

Red

Magenta

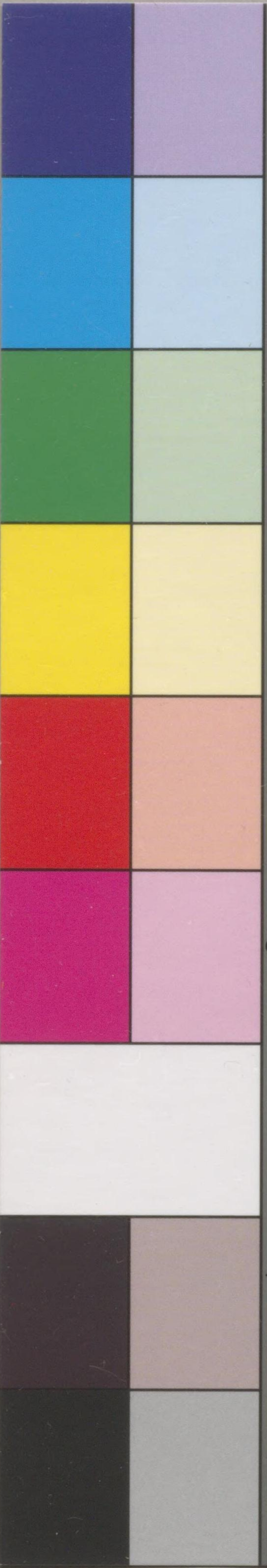
White

3/Color

Black

KODAK Color Control Patches

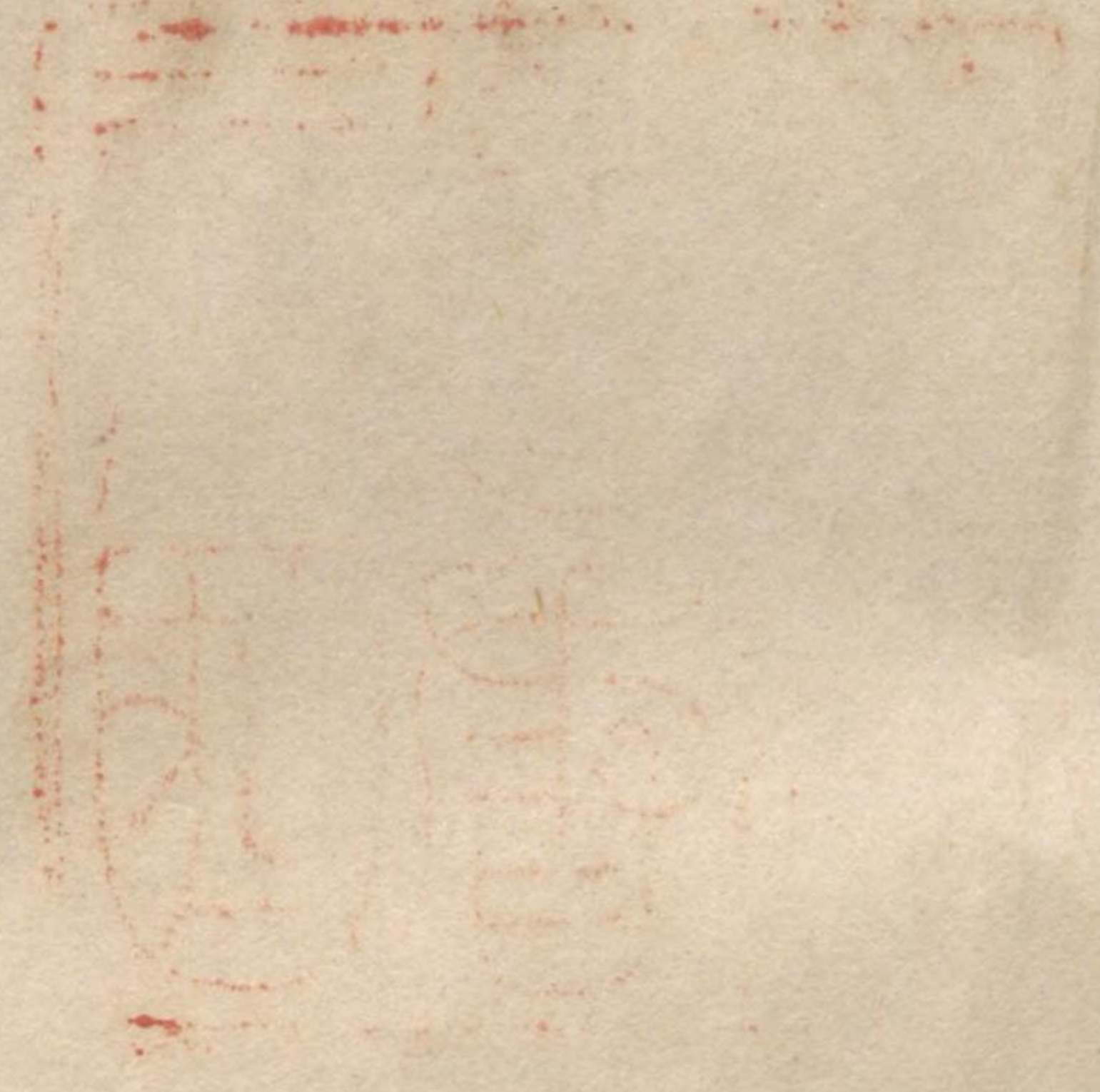
© 2001 Kodak. All rights reserved. TM: Kodak. P427028B



花
菖
蒲
解
說

30. 8. 26

422-47



序

此解説には花菖蒲及之に似たる種類、花菖蒲培養の來歴、花菖蒲の主なる品種の特徴の概略を述べたり。是等の品種は悉く圖譜に描けるものなり。

花菖蒲に關して從來自著中に記載せるものは左の如し。此外に雜誌の類に載せたるものあれども茲に省く。

日本の植物界

第三四七頁

明治四十三年

増訂最新植物學講義

下卷

第四四八頁

大正十年

増訂植物生態美觀

第二四七頁

大正元年

大正十年五月

著者識す

序



目次

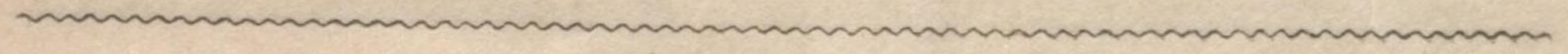
- 一 花菖蒲及類似植物
- 二 花菖蒲培養の來歴
- 三 花菖蒲の品種

圖版目次

- 第一圖版 日光赤沼原の野生の花菖蒲 (一)
- 第二圖版 同 (二)
- 第三圖版 堀切小高園の花菖蒲 (三)
- 第四圖版 同 (四)



THE UNIVERSITY OF CHINA
1911



THE UNIVERSITY OF CHINA
1911



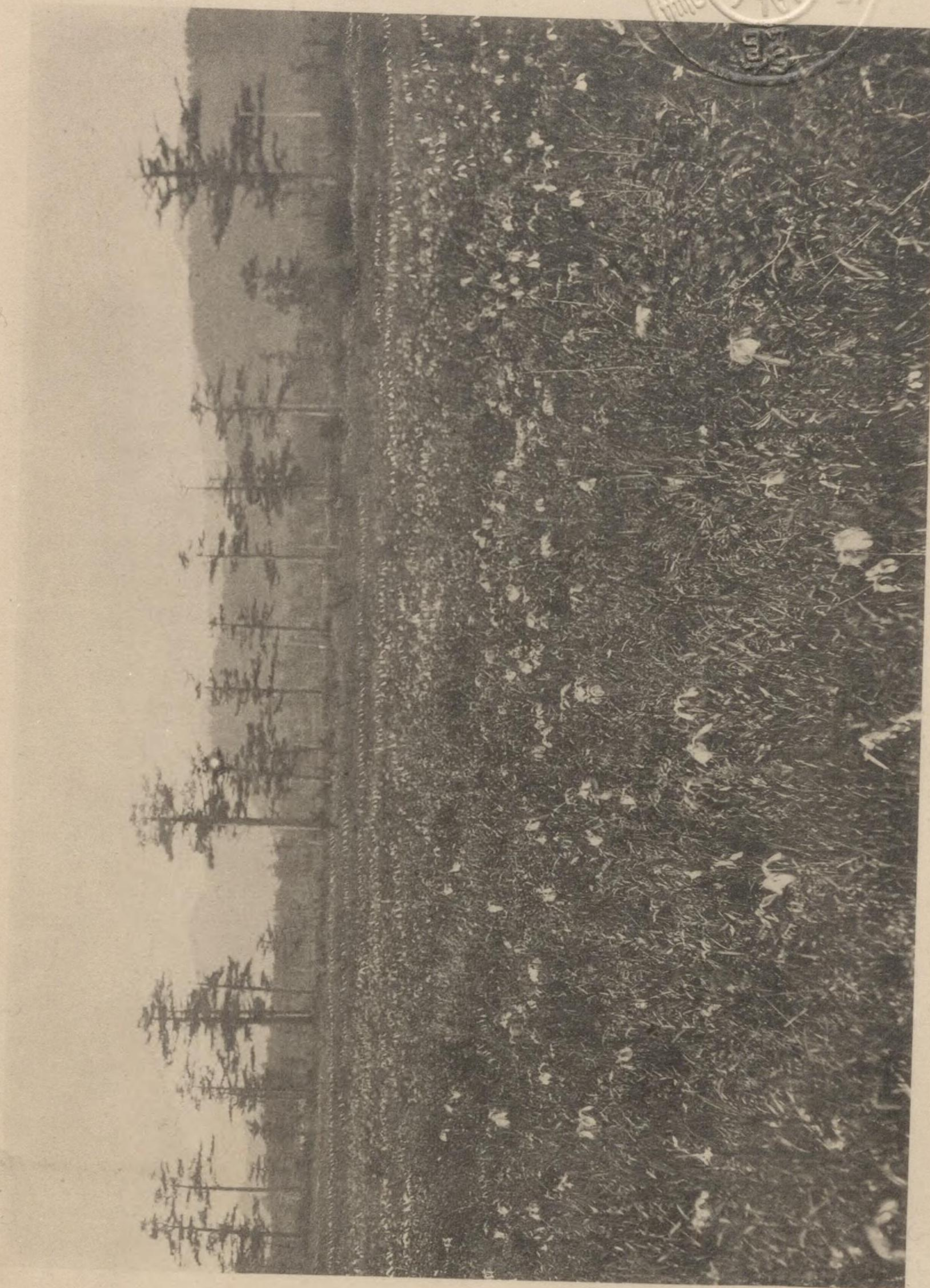
版圖二第



(三好寫眞) (二) 蒲菖花の生野の原沼赤光日
Iris laevigata Fisch.



版圖一第



(三好寫眞) (一) 蒲菖花の生野の原沼赤光日
Iris laevigata Fisch.



版圖三第



(一) 蒲葦花の園高小切堀
Iris laevigata Fisch.
(原 寫 每 三)



(三好寫眞)

蒲喜花の園高小切堀
Iris laevigata Fisch.

第四圖版

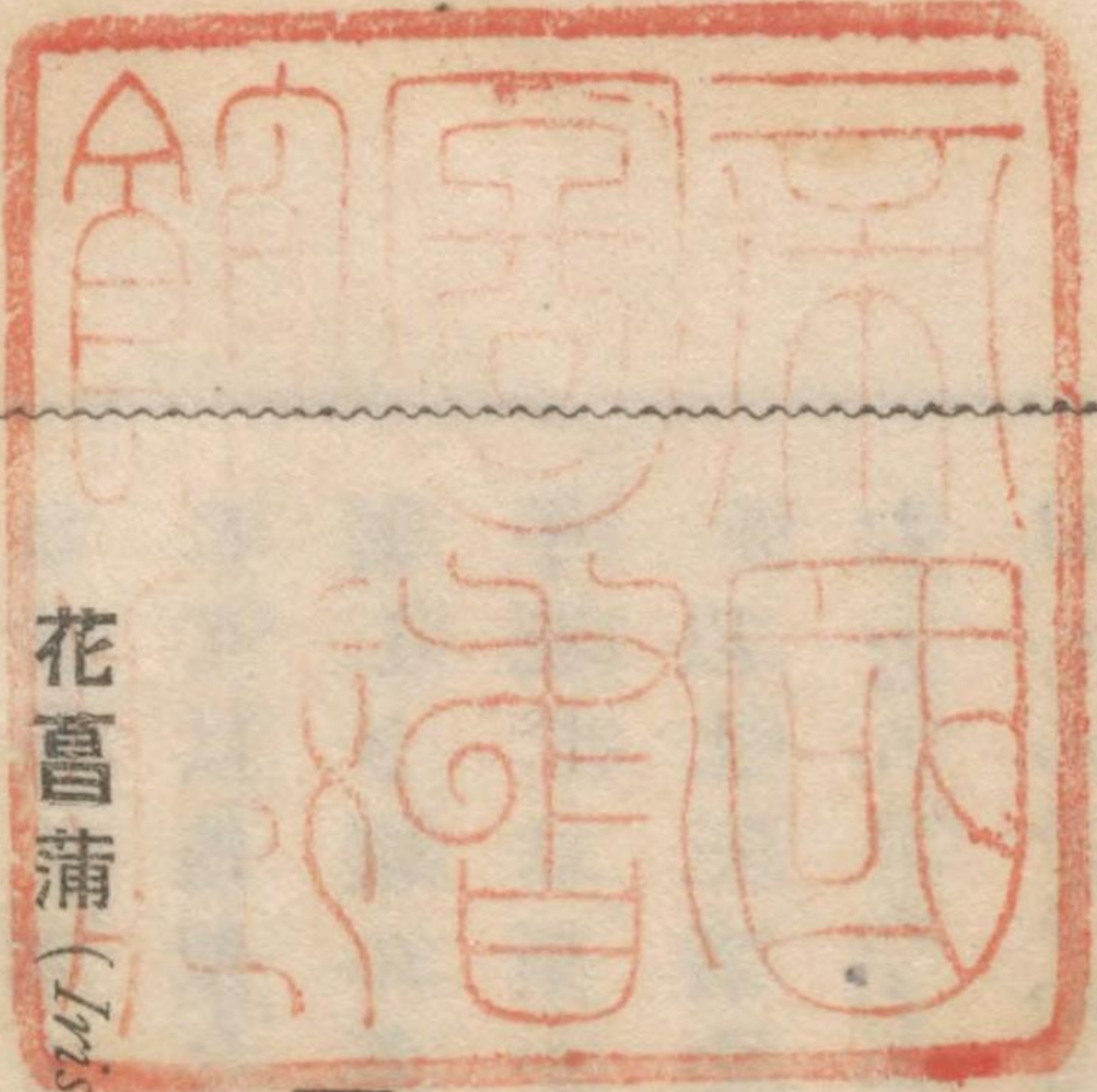




花 菖 蒲 解 説

理學博士 三 好 學 著

一 花 菖 蒲 及 類 似 植 物



花菖蒲 (*Iris laevigata* Fisch.) は鳶尾科植物にして、本邦中部より東北部に多く、

(第一圖版及第二圖版) 西南部には少し。海外にては西伯利亞に産す。花菖蒲の屬する鳶尾屬 (*Iris*) には多數の種を有し、歐洲亞細亞に分布し、殊に亞細亞の東北部に多し。

花菖蒲の外に花葉の形態の似たるものには燕子花 (*Iris albopurpurea* Bak.) の溪蓀 (*Iris sibirica* L. var. *orientalis* Max.) ありて、普通本邦に見れども、西伯利亞地方に

花菖蒲及類似植物

も産するものあり。今此三者を互に比較すれば、花菖蒲は山野に生じ、其發生する場處は特に濕地に非ざるも、尙水田に培養するを得べし。燕子花は沼地に産し、溪蓀は花菖蒲と同様の土地に生じ、普通の花壇に植ゑて長く生長す。葉は花菖蒲にては直立して劍狀を成し、中央に太き縦の筋あり。燕花子の葉は花菖蒲の葉よりも幅廣く、色淡く、軟なり。又葉面に太き縦の筋なし。溪蓀は丈短く、葉も亦細し。花は花菖蒲の野生種にては帶紫赤色なれども、燕子花にては淡紫なり。溪蓀の花は濃紫色にして、花の外부를成せる三片の内底に著しき縦の筋あり。且、褐色の斑紋を現し、細まかき毛を生せり。花菖蒲と燕子花には斯かる部分なし。

以上三者の外に尙類似せる花草としては、えひめあやめ、ねぢあやめ、こかきつばた、なんきんあやめ等ありて、往々培養せらる。又歐洲産にして渡來せるものは、むらさきいりす、にほひいりす、黄菖蒲の類あり。えひめあやめ (*Iris Kossie* Bak.) は莖細小、高さ約四五寸、花も隨つて小なり。伊豫豊後等の山中に生じ、又朝鮮滿洲

等にも産す。ねぢあやめ (*Iris ensata* Thunb. var. *chinensis* Max.) は葉の捻ぢれたるによりて著し。莖葉花共に大ならず。亞細亞北部の産なり。こかきつばた (*Iris ruthenia* Dry.) なんきんあやめ (*Iris pumila* L.) も共に小さき花草にして、前者は西伯利亞に、後者は歐洲より亞細亞に亘りて産す。むらさきいりす (*Iris germanica* L.) は歐洲南部に、にほひいりす (*Iris florentina* L.) は歐洲東部に、黄菖蒲は歐洲中部より東部に産し、或は其花色の著しきにより、又は花に香氣あるによりて知らる。其他ひあふぎ、しやが、ひめしやが、いちはつの類も鳶尾屬なるも、外觀は花菖蒲類と同じからず。

花菖蒲及一般似植物は、ダイクス氏の著はせる「鳶尾屬」と題する圖譜(一九一三年)に載せたり。尙同氏の別に著はせる「花菖蒲類」と題せる小冊子にも此類の圖説あり。

一 花菖蒲培養の來歴

花菖蒲の類にて昔より知られたるは燕子花にして、古き時代の畫に現れ、又名所の花としても持て囃されたり。然れども延寶・元祿・享保の頃の園藝書類に既に花菖蒲を載せたるものあれば、其培養は夙に行はれたるべし。唯此花草の栽培の流行したるは遙に後世にして、松平左金吾の「花菖蒲培養録」によれば、天保・嘉永の頃ならん。左金吾は菖翁と號し、舊幕府の旗本にして、園藝を好み、父の代より花菖蒲の培養に努め、多年の苦心によりて遂に成功を見るに至れり。

菖翁の父が花菖蒲の培養を始めたるは天明年間にして、初め信州産の花あやめを得て植ゑたるに、其實生は更に變化せざりしが、後伊豫の松山より陸奥の淺積の沼の花勝見なりとて送り來れるものを植ゑ、是より種々の變れる實生出でたりと云ふ。此花あやめなるものが普通の溪蓀なりとせば、固より花

菖蒲に非ざるも、右の花勝見は恐らく花菖蒲なるべし。唯其野生種なりしや、又は培養種なりしや明ならざれども、或は半ば培養せられたるものならんか。「培養録」に其後にも知人より淺積の沼産の眞正の花勝見を得て培養し、變化したる實生の生せることを記せるを以て見れば、菖翁父子の花菖蒲の原植物は數回に涉りて獲たる野生種又は半培養種たるを知るべし。

菖翁が花菖蒲の珍花を作るに苦心したることは、「培養録」に左の如く述べたるにより明なり。

「去し夏實生初咲の内八重の形狀含たる花を撰び多く培養せしに翌夏咲たるをみるに其中五種花形十倍して未曾有の珍花開きたり六十餘年此花形に心酔せしか漸成就せり」

蓋し花菖蒲には素より變化の性質ありとするも、彼の山櫻の如く野生の狀態に於て著しく變りたるものなし。現に信州其他の山中に於て花菖蒲の多く生せる處に到りて見るに、偶々花色の濃淡、花蓋の廣さ等に多少の差異ある

を知るも、特に著しき區別あるものなし。斯かる野生種を探りて來りて遂に花色花形に著甚の變化を起さしめたるは一に培養の成功と云ふべし。

斯く菖翁父子の熱心なる培養によりて花菖蒲の多數の園藝品種を生じ、其中にも優れたる珍花の出でたるによりて世の花菖蒲觀賞家の注意を惹き、苗株の分與を請ふもの多くなれり。「培養録」に

「近年花菖蒲流行せし故にや俄に流布し夏時花ひらかは見るもの日も足らしと狹園に袖をつらね根越し己か園に移し植に眺んと欲するもの其數を知らず」

と記せるを見ても菖翁の園内に觀花の客の群集せる狀を想ふべし。

菖翁の丹精によりて生せる花菖蒲の品種は花戸の賣品とならんことを恐れ、濫りに人に與へざりしが、門人の懇請否み難く分與したるに、それより次第に世に流布し、遂には普通の花草の如く賣品となるに至れり。「培養録」には享和年間に既に苗を分與したる由を記したれば、花菖蒲の品種が夙に同家より

出でたるを知るべし。唯其頃には未優れたる品種は少かりしが如し。「培養録」は嘉永六年に著はし、書中には詳に父子二代の培養上の經驗を録せり。同書に載せたる珍種は雲の峰・木綿手・緞霞の波・晴雪の松・昇龍雲衣裳・歸雁操・雲龍仙女の洞・五湖の遊・鳴鑾・虎嘯・六合東下・管絃の聲・紅粉・青娥・竜田川・月下の波・獅子・奮迅・霓裳・羽衣・宇宙の二十一にして、何れも彩色畫を以てせり。是等の品種は花形・花色の優れたるものにして、當時稀品として珍重せるは故なきに非ず。此中の或るもの昇龍・歸雁・操仙女の洞・龍田川・月下の波・獅子・奮迅・霓裳・羽衣・宇宙等は現に堀切の小高園などにも之を見れども、他のものは現存の有無不明なり。

因に記す、花菖蒲培養録は寫本として行はれ、轉寫によりて誤字少からず。熊本の「花連」の藏本は原本なりと云ふ。茲には帝國圖書館の藏本に據れり。

「培養録」には花菖蒲の品種僅に前記の二十一を挙げたるが、多數の品種は別に「花菖蒲花銘」と題する書に載せたり。即ち宇宙牡丹咲紺青を始め、總計百二十の名を掲げ、一々花の形と色とを記せり。此書も寫本にして、卷末に「安政三丙辰年八月改 松平菖翁より借用寫之 樂松館とあるにより、當時菖翁の花

菖蒲園の品種の總目錄と見做すべし。

此の如く花菖蒲の多數の園藝品種特に其珍種の生成及培養の流行は一に菖翁に依るものにして、菖翁を目して此道第一の功勞者となすは當然なり。されど古るき時代に於て花菖蒲の園藝品種の既に存在したりしは前にも述べたる如く、延寶元祿の昔に於ても證するを得べく、降つて文化文政頃の白河樂翁公の浴恩園には此花草の變り物の少からざりしが如し。是れ樂翁公の後なる松平子爵家の所藏浴恩園花卉圖卷中に載する所にして、予は嘗て同子爵家の好意によりて覽るを得たり。

今日の堀切其他に見る如き花菖蒲園の初めて設けられたるは何時頃なるや詳ならざれども、恐らくは文政天保の頃なるべし。堀切の花菖蒲園の中に最も古るきは小高園(第三圖版及第四圖版)にして、小高伊兵衛の創設にかゝり、廣き水田一面に花菖蒲を植ゑ、別に垣塀を設けざるにより、園内の小高き丘上に立ちて望めば眼界廣遠頗る自然の趣に富めり。小高園は斯かる開豁な

る風景を以て夙に世に知られ、初代廣重の錦繪にも現はれ、又安政頃の「江戸切圖」(隅田向島繪圖の分)にも其所在を示せり。同園の花菖蒲は園主が富士より採り來れる野生種を本とし作り出せるが如く言ひ傳ふるも、主として松平菖翁の園より出でたるものならん。是れ同園の花銘が菖翁の花銘と一致するもの少からざればなり。尤も實生によれる新花は年々其數を増し、其中の優種は新名を得て觀覽に供せられたるにより、後世にては是等の新花の數は舊花の數よりも多くなれり。

序に述べたきは花菖蒲の花名なり。昔菖翁の花園より出たるものは一々名を附けられ、他處へ移さるゝも其名にて通りたるが、後世諸所に轉植するに及で、往々名の間違を生じ、又は故意に名を改めたるもあり。又菖翁の花園以外に生せるものには同一品種にてありながら各花菖蒲園に於て別名を附せるもの少からず。是れ現に見る所にして、例へば小高園に於て「八重勝見」と稱するものは、吉野園に於て「峰の松風」と云ふが如し。斯く花名の區々たるは花

菖蒲觀賞者に少からざる不便を與ふるものなれば、統一したきものなり。凡べて花名は其不適當なるものゝ外は、古るくより定まれる名、又は一般に前に附けたる名を用ふるを良とすれども、實際に於ては一々命名の年代來歴の不明なるもの多くして判斷容易に非ず。予が從來用ひ來れるは主として小高園の花名なり。是れ同園が諸他の花菖蒲園よりも古るく、從つて命名の來歴の古るきもの多ければなり。

一舊時花菖蒲の流行に伴ひ、其培養頻りに行はれ、珍種の生成に苦心したる人々の多かりしは小田海仙の左の詩によりても證すべし。

雪白紫茸敷綺羅、靈根劍葉斬妖魔、工夫奪得花神功、君是當今廓橐駝、幾盆培養鬪奇葩、嫋々鮮妍麗彩霞、含露搖風如有意、艷姿恰似向人誇、

吾邦稱花菖蒲者、考乎群芳譜品名不詳、蓋燕子花溪蓀之種類也、近日都下好事之士、競變化鬪奇巧、瑞燕主人最極其妙、可謂奪造化機矣、屢辱寄贈、因

賦小詩爲謝、

時弘化二年夏五月也

海仙羸

因に記す小田海仙は南宗畫家として名あり。京都に住し、文久元年歿せり。斯く花菖蒲の流行するに隨ひ、燕子花は反つて衰へ、古來傳はれる品種は今日にては僅に十を超えず。是とても次第に消失しつゝあり。花菖蒲は明治三十五年頃堀切の小高園の番附には約百五十、同所の武藏屋の番附には約二百、引舟通四ツ木の吉野園の銘鑑(明治三十五年)には四百四十一の花名を載せたり。斯く花菖蒲の品種が近世に至りて益々多きのみならず、古來の珍種も多く保存されたるは一に此花の觀賞の盛なるに由れり。花菖蒲の品種圖は彼

て輸出向)のものを除き、圖譜として從來出版せられたるものを聞かず。

堀切の外、東京内外には花菖蒲園ありしが、此中廢園となれるもの少からず。小石川白山下にありしものゝ如き其一なり。近時大阪附近の住吉には陸作りの花菖蒲園設けられ、普通の如く水中に植ゑずして畠に作れるが、發生佳良なり。此花草の元來水生ならざるより見れば當然と云ふべし。

茲に記すべきは松平菖翁の花菖蒲の培養法と其珍種とは門人によりて熊本に傳はれること是れなり。同地の花菖蒲培養家は「花連」の人々にして、巧に培養の術を施し、艷麗なる花を開かしむ。何れも鉢造りなり。斯く菖翁の正統が熊本に傳はれるは此道の爲に喜ぶべし。

三 花菖蒲の品種

昔より培養せる花菖蒲の品種は、元野生種の實生變化によりて生成したるものたるは言を俟たず。依て茲には先づ野生種の特徴を記すべし。

野生花菖蒲 *Iris laevigata* Fisch. 一 I 「花菖蒲圖譜」卷一の第一圖なり以下之に倣ふ。 葉は劍狀にして立ち、中央に著しき縦の筋あり。葉の下部は開きて順次内部にある葉は抱き圍めり。抱き合へる葉の内面は普通の葉の表面に當り、其中肋に沿ふて左右に折れたり。故に葉の上部の両面は普通の葉の裏面(下面)の左半と右半に匹敵せり。葉は莖の下方のみならず其上方より出づるもあり。花は萼に當たる外部の三枚即ち外花蓋は幅廣く、匙形を成し、先端は稍々外方に垂れ、本の部分にて互に相合着し、帶紫赤色を呈す。瓣に當たる内方の三枚即ち内花蓋は幅狭く披針狀となり、上方に立つ。色は殆ど外花蓋と同じ。中央には三本の雌蕊あり、下部は合して一本となり、上部は互に離れ柱の如くなり、次第に外方に屈曲し、其

先端に各唇状の柱頭を現はせり。此屈曲せる雌蕊の上部と外花蓋片との間に各一の雄蕊あれども、外部より見えす。子房は下位にして、三室を有し、數多の種子を生ず。

斯く花苜蒲の花が本來三の數にて成れること、外花蓋と内花蓋と形を異にせること、子房の下位なることは何れも此植物の特徴なるが、培養せらるゝに及で是等の特徴中の第一と第二とは變化して所謂六瓣花となり、又は九瓣・十二瓣等の花を生せるのみならず、基本的系數たる三が四となり、五となり、以て四瓣花・五瓣花を成すに至れり。茲に言ふ六瓣花・九瓣花等は内外花蓋の形・大きさ・位置色が總べて同様となりて、外觀上恰かも六瓣・九瓣等の如くなれるものなり。此點より見れば、野生の花苜蒲は三瓣花と云ふべく、又培養種にても外花蓋が甚大きくなり、内花蓋は之に比して頗る狭小なるものは同様に名づくるを便とす。

培養種に起れる變化の種類は大別して形の變化・大きさの變化・色の變化とな

すべし。是れ皆花に關するものなれども、葉の大きさ、莖の高さ等に於ても變化なきに非ず。唯其著しからざるにより人の注意を惹くこと少し。

形の變化は狂咲・稀咲の類にして、狂咲は花の部分の形・位置・數等の不規則となれるもの(例、利勝の玉笑布袋、稀咲は珍奇なる花形となれるものを云ふ。此中には爪咲と稱し花蓋が爪状を成し全く開かざるもの(例、龍の爪、玉咲と云ひ花蓋が寶珠の玉の如くなれるもの(例、龍の玉)あり。又蓮華咲(例、玉寶蓮、折鶴咲(例、折鶴、車咲(例、葵車、冠咲(例、赤寶冠)等何れも花蓋の形を以て名づけたり。又花の定まれ部分の外に新なる部分の發生して特殊の形狀を呈せるものもあり(例、八重勝見)。

大きさの變化は主として花蓋に起れるものにして、前に述べたる如く野生種の外花蓋の三片が著大となり見事なる三瓣花となれるもの、又は内花蓋が外花蓋と同様の大きさになり六瓣花となれるものとあり。此中前者は後者に比して正式の花を成し、且花徑も最も大なり。座間の森の如き三瓣大輪の花に

ては直径八九寸より殆ど一尺に至れるものあり。凡べて三瓣花は花菖蒲の本来の花形を現すものなれば、六瓣花に比して自然の趣ありて優美なり。六瓣花は内外花蓋同様に發生せる爲花徑三瓣花程大ならず、且概して花の質は固く、随つて質の薄く柔なる三瓣花の如く垂るゝこと少し。

數の變化は花蓋片雄蕊及雌蕊の増加に由るを常とす。前述の九瓣花、十二瓣花又は四瓣花五瓣花の如きは花蓋片の定數の變化によれるものなるが、尙雄蕊雌蕊の數も三本以上となれるもの多し。尤も四瓣花五瓣花の如き著しき畸態花にては雌雄蕊の數は花蓋片數の變化に伴ひ明に四又は五となれども、六瓣花又は六瓣以上の花にては雄蕊は不規則に増加し、且不完全なるもの或は畸形のものあり。即ち單純なる絲狀線狀をなせるもの、多少瓣狀を呈するもの、上部に唇狀柱頭を生じ、其下方の兩側に葯を有するものあり。是等をすべて化生雄蕊と云ふ。

色の變化は前記の種々の變化よりも尙著甚なり。野生種に見る如き帶紫

赤色は培養種に於ては多方面に變化し、一方には一層赤色となれるものあれば、他方には紫色より藍色に移らんとするものあり。又色の退消して純白となれるものあり。予は從來花菖蒲を色彩により單色花混色花とに分ち、單色花を赤海老紫赤紫淡紫濃紫藤紫藍紫瑠璃色等となし、混色花を上記の諸色の紋り更紗砂子飛白線入縁取等となせり。紋り以下は色の交り方の粗密又は混色の位置によりて區別す。此中縁取とは花蓋の邊緣の特に色を異にするものを云ふ(例、立田川)此外に染分と稱するものあり。是れ外花蓋と内花蓋とが色觀を異にするものにして、例へば外花蓋は白地に淡紫線入、内花蓋は海老紫となれるもの(沖の浪)又は外花蓋は淡桃色紋り、内花蓋は淡赤紫地に同色の濃き線入(岩井城)となれるが如し。斯かる染分の類は單色花に比して花色の進化的著しきものと云はざるべからず。尤も單色花の外花蓋と内花蓋とは色彩の濃度に多少の差異あるもの少からざれども、染分花に於ては啻に濃度のみならず、色觀の異なるに至れり。

以上培養種に起れる變化を説きたるが、予は是等の品種の特性固定の有無に關して多年東京帝國大學理學部附屬の小石川植物園に於て培養試験を施せり。試験は未結了せざるものあれども、從來得たる結果の中には明に特性の遺傳を示せるもの少からず。尤も遺傳の度は品種によりて等差あり。又特性固定の外に往々偶然變化を呈せるものもあり。すべて是等の培養試験の結果の記事は茲に省く。

花菖蒲園にては年々多數の新花を生ず。是れ培養種の實生より成れるものにして、野生種が一旦培養種と成れる後には變化の特性旺盛して、著しき形態と色彩とを呈するに由るなり。予が去る明治三十六年頃小高園に於て見たる新花の中、大輪の三瓣花にして花形は稍、座間の森に似、柔軟なる廣き外花蓋に縮緬狀の皺を具へ、全體優美なる淡紫色を呈せるものあり。古來未知られざる珍花なるにより、當時「大江戸」と命名せり。此珍種は唯一回出でたるのみにて、其後は僅に根分によりて繁殖せしめたるが、未一般菖蒲園に見るに至

らす。花菖蒲に限らず何れの花卉にても優れたる品種は其出現甚稀なり。以下花菖蒲の品種百を擇み各、其特徴を略記すべし。

上記の野生花菖蒲以下すべて圖譜の順序に依り。

單色花

伊達道具 *Iris laevigata* Fisch. f. datedogu. 1 2

中咲 花期を早咲・中咲・遅咲に分つ。早咲は東京にては六月十日頃、中咲は中旬、遅咲は下旬に開花す。概して花部の複雑なるものは遅咲なり。 堅花 花の質の堅きものを云ふ。此外に花の質の柔きものあり、之を柔花と云ふ。 花徑約七寸、薄赤色、外花蓋の黃點の周圍は紫色を呈す。

秀紫 *Iris laevigata* Fisch. f. shūshi. 1 3

遅咲、柔花、花徑約七寸五分、赤紫色。

大淀 *Iris laevigata* Fisch. f. ōyodo. 1 4

中咲、柔花、花徑約七寸五分、帶赤濃紫色。

若紫 *Iris laevigata* Fisch. f. wakamurasaki. 1 5

鳳雛

Iris laevigata Fisch. f. hōsū. 1 6

中咲、花徑約六寸五分、紫色。

江戸自慢

Iris laevigata Fisch. f. yedojinan. 1 7

早咲、堅花、花徑約五寸五分、濃帶紫色。

免の色

Iris laevigata Fisch. f. yurushi-no-iro. 1 8

中咲、堅花、花徑約五寸、濃純紫色。

大江戸

Iris laevigata Fisch. f. ōyedo. 1 9

中咲、柔花、花徑約八寸、外花蓋片の幅約四寸に達す。淡紫色、内花蓋は赤色を帯ぶ。明治三十六年頃小高園に生せる新花にして、予の命名せるもの、優美なる品種なり。

松ヶ枝

Iris laevigata Fisch. f. matsugae. 1 10

中咲、堅花、圓形花徑約六寸五分、白色又は白地に淡藤紫色の細線あり。

和歌浦

Iris laevigata Fisch. f. waka-no-ura. 1 11

早咲、花徑約六寸、莖の高さ約三尺、白地に淡藍紫の斑線全面に布けり。内花蓋の周縁に同色の線ありて縁取となれり。

初霜

Iris laevigata Fisch. f. hatsushimo. 1 12

早咲、花徑約七寸、内花蓋甚小、白色。

座間の森

Iris laevigata Fisch. f. zama-no-mori. 1 13

中咲、柔花、花徑約九寸、外花蓋片甚大きく薄くして垂れ、一面に縮緬状の皺あり。白地に淡紫の斑線あること、和歌浦に似たり。内花蓋は淡紫の縁取となれり。葉も柔にして先端屈垂す。三瓣大輪の花菖蒲として著し。

三瓣紋

猿踊

Iris laevigata Fisch. f. saruodori. 1 14

早咲、圓花、花徑約六寸、一面に桃色の太き斑線あり。外花蓋片の基脚部は紫色を帯ぶ。

岩戸の光

Iris laevigata Fisch. f. iwato-no-hikari. 1 15

一般の特徴猿蹄に似たるも花色更に濃く、一樣に赤味強し。

萩の里 Iris laevigata Fisch. f. hagi-no-sato. 16

中咲、柔花、花徑約五寸五分、淡小豆色に同色の濃き線あり。

迦陵嚩伽 Iris laevigata Fisch. f. karyobinga. 17

中咲、堅花、圓形、花徑七寸白地に赤紫の更紗あり。

虹の巴 Iris laevigata Fisch. f. niji-no-tomoei. 18

中咲、柔花、花徑約七寸、赤紫地に白き縦線太く抜けり。

旭鑑 Iris laevigata Fisch. f. asahiyoroi. 19

中咲、堅花、圓形、花徑約六寸、赤紫砂子地に同色の細き縦線あり。

野戦の櫻 Iris laevigata Fisch. f. yasen-no sakura. 20

中咲、柔花、花徑約七寸、白地に赤紫の更紗あり。

入日の灘 Iris laevigata Fisch. f. irihi-no-nada. 21

早咲、圓形、花徑約五寸、濃き赤紫の更紗あり。時として外花蓋の一部一樣な

る赤紫色となることあり。

蜀江錦 Iris laevigata Fisch. f. shokukōshiki. 22

早咲、堅花、圓形、花徑約五寸、白地に濃紫色のぼかし及小豆色の砂子あり。

鶴鶴樓 Iris laevigata Fisch. f. kakujakuro. 23

中咲、柔花、花徑約八寸、外花蓋片幅廣し。赤紫地に白き細線あり。花蓋片の

周邊濃色なり。

大鳴海 Iris laevigata Fisch. f. onarumi. 24

中咲、柔花、花徑約六寸、全面濃藤紫の更紗、内花蓋は梅老紫なり。

青龍刀 Iris laevigata Fisch. f. seiryūō. 25

中咲、柔花、圓形、花徑約五寸、淡藤紫のぼかしに白の縦線あり。内花蓋赤紫色。

都鳥 Iris laevigata Fisch. f. miyakodori. 26

中咲、花徑五寸、赤紫地に白き線入り。

月下の波 Iris laevigata Fisch. f. gekka-no-nami. 27

奥咲、堅花、圓形、花徑約六寸、赤紫地に白細線入り。七八本の雌蕊あり。

巴 *Iris laevigata* Fisch. f. tomoe. 11 28

中咲、堅花、圓形、瑠璃紫地に淡水色の更紗線入り。内花蓋は海老紫なり。

色自慢 *Iris laevigata* Fisch. f. irojiman. 11 29

奥咲、柔花、縮緬狀、花徑約六寸、淡瑠璃色地に白細線入り。色彩の殊に優れたる品種なり。

三瓣縁取

立田川 *Iris laevigata* Fisch. f. tatsutagawa. 11 30

中咲、堅花、外花蓋の邊緣縮緬狀をなす。花徑約七寸、白地に淡赤紫細線ばかり。花蓋の邊緣は濃き同色の縁取となれり。

三瓣染分

沖の浪 *Iris laevigata* Fisch. f. oki-no-nami. 11 31

中咲、堅花、花徑約五寸、外花蓋白地に淡藤紫線入り。内花蓋濃帯赤紫色。

岩井城 *Iris laevigata* Fisch. f. iwijo. 11 32

中咲、花徑約六寸、外花蓋淡赤紫の絞砂子、内花蓋小豆色の絞。

白妙 *Iris laevigata* Fisch. f. shirotae. 11 33

中咲、堅花、花徑約五寸五分、外花蓋白地に紫細線入り、内花蓋淡赤紫色。

君が恵 *Iris laevigata* Fisch. f. kimigamegumi. 11 34

奥咲、柔花、花徑約六寸、外花蓋淡紫地に濃紫細線入り、内花蓋海老紫色。

千歳鶴 *Iris laevigata* Fisch. f. chitosezuru. 11 35

中咲、堅花、圓形、花徑約七寸、外花蓋白色、時として淡紅色のばかり。内花蓋赤紫の更紗。

青海波 *Iris laevigata* Fisch. f. seikai-no-nami. 11 36

中咲、堅花、圓形、花徑約五寸、外花蓋白色又は淡紫のばかりと同色の細線あり。内花蓋帯紫紅色。

六瓣單色花

劍つるぎの舞 Iris laevigata Fisch. f. tsurugi-no-mai. 11 37

中咲、圓形、花徑約七寸、帶紫赤色。

熊くま奮ふん迅 Iris laevigata Fisch. f. kumafunjin. 11 38

中咲、堅花、花徑約六寸、赤紫色。

古稀の色 Iris laevigata Fisch. f. koki-no-iro. 11 39

中咲、花徑約七寸、帶赤紫色、化生副雄蕊あり。

瑠る璃り競 Iris laevigata Fisch. f. rurikurabe. 11 40

中咲、花徑約五寸、花蓋片狹小各片の中央より基底の方濃瑠璃色、外圍は赤紫色。

王昭君 Iris laevigata Fisch. f. ōshōkun. 11 41

中咲、堅花、花徑約六寸五分、濃瑠璃紫。

黑雲 Iris laevigata Fisch. f. kurokumo. 11 42

奥咲、堅花、花徑約六寸、花蓋片の中央濃瑠璃色、外圍は濃紫色。

西施 Iris laevigata Fisch. f. seishi. 11 43

中咲、堅花、花徑約四寸五分、内花蓋の三片は稍狭し、全花白色。

萬ばん代だいの波 Iris laevigata Fisch. f. bandai-no-nami. 11 44

中咲、花徑約六寸、白色。

六瓣紋

霞かすみ裳しん羽衣 Iris laevigata Fisch. f. geishōui. 11 45

奥咲、柔花、花徑約六寸五分。濃帶紫赤地に白の線入。

紅もみぢ葉ぢの瀧 Iris laevigata Fisch. f. momiji-no-taki. 11 46

奥咲、堅花、花徑約六寸五分、白地に赤紫の更紗線入り。花蓋片の基部の黄點の周圍は紫色ばかり。數本の副雌蕊あり、雌蕊の上端の裂片は濃紅紫色。

茶臺 Iris laevigata Fisch. f. chadai. 11 47

中咲、堅花、花徑五寸、内花蓋は稍狭小、内外花蓋とも白地に帶紫紅色の縁取。花面扁たく、多少受咲なるにより茶臺の名あり。

玉ぎよく寶く龍 Iris laevigata Fisch. f. gyokuhōryō. 11 48

中咲、堅花、花徑約五寸、白地に紅線ぼかし。

蝦夷錦 *Iris laevigata* Fisch. f. ezonishiki. 一一四九

中咲、堅花、花徑約六寸、赤紫の更紗、花蓋片は一層紫色を帯ぶ。

七小町 *Iris laevigata* Fisch. f. nanakomachi. 一一五〇

中咲、堅花、花徑約六寸、全面藤紫濃淡不同の更紗。

明石湯 *Iris laevigata* Fisch. f. akashigata. 一一五一

中咲、堅花、花徑約七寸、赤紫地に白線入り。

浪乗船 *Iris laevigata* Fisch. f. naminorifune. 一一五二

中咲、花徑約六寸、淡紫地に白線入り。

五節の舞 *Iris laevigata* Fisch. f. gosetsu-no-mai. 一一五三

中咲、堅花、花徑約六寸、淡藤紫ぼかしに濃き同色線入り。莖の丈高し。

三光紫 *Iris laevigata* Fisch. f. sankomurasaki. 一一五四

中咲、堅花、花徑約五寸五分、濃帯赤紫色の濃き線入り。

花錦 *Iris laevigata* Fisch. f. hananishiki. 一一五五

中咲、堅花、花徑六寸、海老紫地に白細線入り。

子弟車 *Iris laevigata* Fisch. f. jige-no-kuruma. 一一五六

遅咲、堅花、花徑約五寸五分、赤紫地ぼかし。雌蕊柱暗紫色。

隅田川 *Iris laevigata* Fisch. f. sumidagawa. 一一五七

遅咲、堅花、淡藤紫地に同色の濃き線入り。雌蕊柱濃紫色。

吹寄 *Iris laevigata* Fisch. f. fukiyose. 一一五八

遅咲、柔花、花徑約六寸、白地に紫更紗。

花葵 *Iris laevigata* Fisch. f. hana-aoi. 一一五九

遅咲、堅花、花徑約五寸、白地に紫線入りぼかし。花蓋の裏面紫色。雌蕊柱暗

紫色。

寶遊 *Iris laevigata* Fisch. f. takara-asobi. 一一六〇

早咲、堅花、圓形花徑約五寸五分、瑠璃紫地に白細線入り。

滋賀浦波 *Iris laevigata* Fisch. f. shiga-no-uranami. 三161

早咲、堅花、花徑約五寸五分、色彩寶遊に似て濃し。

照田 *Iris laevigata* Fisch. f. teruta. 三162

中咲花徑約五寸、白地に淡紫ぼかし。花蓋の黄點の周圍濃紫色となり、それより同色の線出でたり。

春日野 *Iris laevigata* Fisch. f. kasugano. 三163

中咲、堅花、花徑約六寸、淡藤紫ぼかし、同色の濃き線入り。

天の川 *Iris laevigata* Fisch. f. ama-no-gawa. 三164

中咲、堅花、花徑約五寸、白地に瑠璃紫ぼかし。

湖水の色 *Iris laevigata* Fisch. f. kosui-no-iro. 三165

中咲、堅花、花徑約六寸、極淡藍地に同色細線入り。

狂咲

酒中花 *Iris laevigata* Fisch. f. shuchuka. 三166

中咲、堅花、不規則なる受咲花徑約七寸、赤紫地の中央に粗き白線あり。化生雄蕊及副雌蕊あり。

藤娘 *Iris laevigata* Fisch. f. fujimusume. 三167

中咲、堅花、花徑約六寸五分、赤紫及藤紫の更紗。化生雄蕊、副雌蕊多し。小高園に生せる新花にして、予の命名したるもの。

利勝の玉 *Iris laevigata* Fisch. f. risho-no-tama. 三168

中咲、柔花、花徑約六寸、淡藤紫砂子に濃紫線入り。赤紫色の化生雄蕊及副雌蕊あり。

想夫戀 *Iris laevigata* Fisch. f. sofunen. 三169

中咲、花徑約五寸五分、濃き赤紫の更紗。六瓣の外に化生雄蕊の不規則なる瓣状を成せるものあり。

笑布袋 *Iris laevigata* Fisch. f. warahotei. 三170

遅咲、堅花、花徑約七寸、花蓋片は屈曲せり。藤紫ぼかし、濃き同色の線入り、裏

面紫色。多数の化生雄蕊及副雌蕊花心に束立し、獅子頭をなせり。

萬里婦 *Iris laevigata* Fisch. f. banri-fu. 三二 71

中咲、堅花、花徑約五寸五分、赤紫の更紗に同色の濃き線入り、并に縁取。六瓣の外に化生雄蕊の瓣状となれるものあり。

紫雲の籠 *Iris laevigata* Fisch. f. shun-no-taki. 三二 72

遅咲、花徑約八寸、赤紫地に白細線入り。黄點の附近に濃紫のぼかしあり。花心に多くの化生雄蕊及化生雌蕊束立す。

鳳臺 *Iris laevigata* Fisch. f. hōdai. 三二 73

中咲、花徑約七寸、花形紫雲の籠に似たり、色彩は一層濃紫なり。

連城壁 *Iris laevigata* Fisch. f. renjō-no-tama. 三二 74

遅咲、柔花、縮緬状徑約七寸、淡藤紫色、粗き線ぼかし、両蕊化生束立。

唐織錦 *Iris laevigata* Fisch. f. karaorinishiki. 三二 75

中咲、堅花、花徑五寸五分、六瓣の外に化生雄蕊の瓣状となれるものあり。藤

図
三
三

紫と赤紫の更紗絞。化生雌蕊あり。

獅子踊 *Iris laevigata* Fisch. f. shishiodori. 四 76

遅咲、堅花、花徑約六寸、帯紫赤色、瓣状の化生雄蕊ありて花心より高く出づ。

稀 咲

黒龍 *Iris laevigata* Fisch. f. kokuryō. 四 77 左

中咲、堅花、三瓣、濃紫色、花開かすして寶珠状をなす。

龍の爪 *Iris laevigata* Fisch. f. ryū-no-tsume. 四 77 右

中咲、堅花、白色、三瓣、花全く開かざるものと隣れる瓣の縁互に離れ上方にて尙附着せるものあり。

龍の爪 *Iris laevigata* Fisch. f. ryū-no-tsume. 四 78

龍の爪には閉花のもの、外に花の多少開くものあり。

龍の玉 *Iris laevigata* Fisch. f. ryū-no-tama. 四 79

中咲、三瓣、淡赤紫色、閉花なり。

玉寶蓮

Iris laevigata Fisch. t. *gyokuhoren* (*nelumbiflora*.) 四 80

中咲、三瓣、花徑約三寸五分、淡赤紫地に同色の線入り。花形の蓮華の如きによりて著し。

八重勝見

Iris laevigata Fisch. f. *yaekatsumi*. 四 81

遅咲、堅花、花徑約五寸、三瓣をなせる外花蓋は白地に淡藤紫砂子ばかり。内花蓋狭小、披針狀、暗海老紫色、此内部に更に三枚の稍大なる副花蓋あり。外花蓋も畧色を同じくす。斯く花心に副花蓋の立つにより、雌蕊は外部より見えす。珍種なり。

銀玉

Iris laevigata Fisch. f. *gingyoku*. 四 82

早咲、三瓣、堅花、花徑約三寸、玉咲又は、蓮華咲となる。白色。

折鶴

Iris laevigata Fisch. f. *orizuru*. 四 83

早咲、六瓣、堅花、花徑約四寸、瓣の縁内方に折れ込み、狭長となれり。白色半爪咲のものもあり。

十二一重

四瓣 *Iris laevigata* Fisch. t. *jūnihitoe subf. quadripetala*. 四 84

中咲、花徑約六寸、花蓋片狭長、輻狀をなす。外花蓋、内花蓋、雄蕊、雌蕊、皆四の數よりなる。外花蓋は帶紫濃赤色、内花蓋は細長く赤味強し。

十二一重

五瓣 *Iris laevigata* Fisch. f. *jūnihitoe subf. pentapetala*. 四 85

前者に似、唯花の部分の五となれるものなり。十二一重は鳶尾科植物の花部の基本數たる三より四又は五となれるの點に於て著甚なる畸態と云ふべし、稀咲中の奇品なり。

赤寶冠

Iris laevigata Fisch. f. *sekihōkan*. 四 86

遅咲、花徑約五寸五分、花蓋片九、往々八、或は十のものあり。雄蕊并に雌蕊も定數より増加し、四五本より七八本に至る。此外に不完全なる雄蕊の存在せるものあり。全體帶紫赤色なるも雌蕊は暗紫赤色なり。十二一重より化生せるものなり。又別に紫寶冠と稱し、花形は赤寶冠に似、色の瑠璃紫なるものあり。

類縁

(一)

松葉重

Iris laevigata Fisch. f. *matsubagasane*. 四 87

中咲、三瓣、堅花、花徑約六寸、外花蓋片廣大、圓形、白地に赤紫の太線一面に入り、ぼかし。内花蓋小、長楕圓形、赤味強し。

加茂川

Iris laevigata Fisch. f. *kamogawa*. 四 88

中咲、三瓣、堅花、花徑約六寸、花形花色、松葉重に似たるも、外花蓋片の邊緣内方へ巻き込み、受咲となり、三角状の花形に見ゆ、

紅葵

Iris laevigata Fisch. f. *beniaoi*. 四 89

中咲、三瓣、堅花、花徑約六寸、花形は松葉重に似たるも、外花蓋は白地に瑠璃紫、赤紫の交り更紗を現し、内花蓋は鮮なる赤紫色をなす。

(二)

葵車

Iris laevigata Fisch. f. *aoiguruma*. 四 90

中咲、六瓣、堅花、花徑約五寸、淡藍紫地に同色の濃き線入りぼかし。雌蕊は赤

紫色。六瓣輻状に出で車咲をなす。

田毎の月

Iris laevigata Fisch. f. *tagoto-no-tsuki*. 四 91

遅咲、六瓣、堅花、花徑約五寸、淡瑠璃紫、赤紫絞、花形は葵車と同じく車咲なり。

(三)

泉川

Iris laevigata Fisch. f. *izumigawa*. 四 92

遅咲、六瓣、堅花、圓形、花徑約六寸、白地に濃紫線入り。雌蕊、副雌蕊濃紫色。

紫衣の雪

Iris laevigata Fisch. f. *shii-no-yuki*. 四 93

中咲、三瓣、堅花、花徑約六寸五分、花形花色泉川に似たるも、花蓋の紫線は少く淡し。

神代の昔

Iris laevigata Fisch. f. *kamiyo-no-mukashi*. 四 94

早咲、六瓣、堅花、花徑約六寸、全體泉川又は紫衣の雪に似たれども花蓋の紫色のぼかし強し。

眞鶴

Iris laevigata Fisch. f. *manazuru*. 四 95

中咲、六瓣、堅花、圓形、花徑約七寸、一般の白地の紫線紫衣の雪に於けるよりも淡く、殆ど白色に見ゆ、雌蕊の紫色も亦淡し。花形と色彩とは前の三種に類せり。

(四)

長生殿 *Iris laevigata* Fisch. f. chōseiden. 四 96

中咲、六瓣、堅花、花徑約五寸、内花蓋稍小、全體鮮紅色、中央白線入りばかり、恰も紅色縁取の如くなれり。

天女の冠 *Iris laevigata* Fisch. f. tenjo-no-kamuri. 四 97

遅咲、十二瓣、堅花、花徑約五寸、花蓋の外輪六枚、内輪六枚、完全雄蕊六本、不完全雄蕊六本、雌蕊六本、子房六室となれるを正式とす。他には是等の部分の多不規則となれるもあり。花色は紅地に白線入り、長生殿に於けるが如し。

(五)

由縁の霜 *Iris laevigata* Fisch. f. yukari-no-shimo. 四 98

中咲、三瓣、堅花、圓形、花徑約五寸、赤紫地に同色の濃線入り、邊緣淡色にして縁

取となれり。内花蓋は牡丹色。

蓬萊宮 *Iris laevigata* Fisch. f. hōraikyū. 四 99

中咲、三瓣、堅花、花徑約七寸、濃赤紫地に暗赤紫色の細線入り、花蓋の淡色縁取なること由縁の霜に於けるが如し。

大鳥毛 *Iris laevigata* Fisch. f. ōtorige. 四 100

中咲、三瓣、大輪、堅花、花徑約八寸、色彩縁取すべて前の二者に似たるも、色は稍淡し。内花蓋は匙方、海老紫色。

色の進化

花菖蒲の花は野生種に見る帶紫赤色を原色とし、培養品種に於ては鮮紅色より藍色に至るまで色彩進化の範圍頗る廣し。其上にも線入、絞更紗、砂子はかし等の混色を生せるにより、色彩の變化殆ど極りなきに似たり。

是等の色彩の主なるものは圖譜の第百一より百五までに寫し出せり。各方形の色圖は其傍に記せる花菖蒲の花色を摸せるものにして、先づ單色花の

部にては野生種の花色に近き紅色より始まり、次第に青の方に移り、濃艶となれること、又單色花が線入りとなり、それよりほかし、更紗砂子などの混色となれることを表はせり。是等の色はそれらの花菖蒲の花蓋の一部より摸寫したるのみにして、特に圖案化せるものなし。茲に色の進化と云ふも敢へて進化の順序を表はせるに非ずして、唯花菖蒲の野生種の原色が培養種に於て如何に發展したるかを示すに過ぎざるなり。

花菖蒲解説終

花菖蒲解説正誤			
(頁)	(行)	(誤)	(正)
七	四	獅子	獅子
一七	四	紋	絞
同	五	紋	絞
二一	二	周縁	周縁

422
77

